

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上大久保中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	学年ごとに朝、ICTを活用した学習の時間を設けたり、全学年で教科ごとに小テストを実施したりすることで繰り返し学習をする習慣が定着した生徒が増えた一方で、依然として全く家庭学習をしない生徒も一定数いる。次年度は朝の学習の時間により生徒の実態に合った課題に取り組めるように工夫して実施できるようにするとともに、繰り返し根気強く生徒に取り組ませていく必要がある。そして、効果測定を実施し、教員側が知識の定着度を確認するとともに、生徒自身も自分の伸びを実感し、達成感を感じられるようにしていく。
思考・判断・表現	生徒一人ひとりの習熟度に依然として差があるため、個別に習熟度に応じた課題に取り組むことと並行して、生徒同士で教え合う協働的な場面も設定していきながら生徒全員の資質を底上げしていき、最終的にはどの習熟段階においても自分で課題を設定し、課題解決するための方法も自分で決めて取り組める生徒の育成を目指していく。そのために、全教科の授業で課題設定と振り返りの時間を設けることを学校として徹底し、統一の授業モデルで積極的に公開授業を行っていく。また、各教科の授業を通じてさまざまな課題に取り組む経験をさせて、生徒に自分の考えをまとめる力を身につけさせていく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 学習習慣が定着しておらず、基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた課題への取組方も定着していない。 <指導上の課題> 習得した知識・技能を活用する学習活動を設定できない。	⇒ 各教科で小テストを実施し、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように家庭学習の定着を図る。【市学習状況調査「学校の授業時間以外の学習時間」の項目で30分未満と回答する割合が10%以下】 授業中に生徒が本時の目標を立て、本時の学びを振り返る時間を設ける。【「学びの指標アンケート」]「自分の学習の課題を、自分で決めている」の項目で3.3pt以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 生徒一人ひとりの習熟度に差があるため、発展的な学習活動に積極的に取り組めていない。 <指導上の課題> 国や市の調査問題や指針を分析したような授業が行えていない。	⇒ 個に応じた課題を設定し、生徒が意欲的に取り組めるような授業を展開する。【「学びの指標アンケート」]「先生が、学ぶ意欲の高まる、わくわくする授業をしてくれる」の項目で3.5pt以上】 公開授業を積極的にに行い、授業モデルを検討する。【公開授業の実施】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	「学びの指標」アンケートの結果より、「自分の学習の課題を自分で決めている」の項目で学校の平均値は3.18ptだった。 全教員が公開授業を実施することはできたが、課題の設定・振り返りの時間を設けるという授業の流れを学校全体で統一することはできなかった。 「市学習状況調査」の結果より、「学校の授業時間以外の学習時間」が30分未満の生徒の割合は1学年で約30%、2学年で約20%いる。
思考・判断・表現	B	「学びの指標」アンケートの結果より、「先生が、学ぶ意欲の高まる、わくわくする授業をしてくれる」の項目で学校の平均値は3.40ptだった。 上記同様、全教員が公開授業を実施することはできた。学校の実態に応じた授業モデルは次年度に検討していく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語、数学ともに埼玉県、全国の平均を下回った。 国語では特に、情報の取り扱いに関して、情報と情報をつなげて読み取ることや、意見と根拠を整理して読み取ることに関する課題がある。 数学では文字を使った式の表し方や、解き方に課題がある。また、データの活用に関しては大きな課題がみられる。
思考・判断・表現	国語では全国平均を上回っているものの、数学では埼玉県、全国ともに下回った。 国語では読解問題の最後にある記述式のまとめ問題に課題があり、無解答率も10%を超えている。 数学では証明の問題に関して約4割の生徒が無解答であった。 国語、数学ともに記述式の問題に対して無解答率が高いことが課題である。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	学年間で知識・技能の理解度に差が見られる。特に、1学年においては短答形式の問題で無回答の生徒が多く目立った。学年を共通して言えることは、知識について表面的な理解しかしておらず、その意味を問われる問題などで不正解の割合が市平均に比べて高くなっていることから、知識を習得できていないと言える。
思考・判断・表現	学年間で思考・判断・表現の理解度に差が見られる。2学年においては特に理科と社会で思考を表現するような問題で市の平均を上回る正答率となる問題もあった。問題に対して不正解であることよりも、無回答率が高いことを課題として、日々の授業から思考すること、自分の考えを表現することに力を入れていく必要がある。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	市学習状況調査はまだ行っていないので不明だが、「学びの指標アンケート」に関しては、最新のアンケート結果において、「自分の学習の課題を自分で決めている」という項目で平均3.1pt以上である。	⇒ 全教員が公開授業を実施し、公開授業では、生徒自身が課題を設定し、振り返る時間を設けることを徹底する。【全教員の公開授業の1回以上の実施】
思考・判断・表現	B	公開授業は2学期から実施していく予定である。「学びの指標アンケート」に関しては、「先生が、学ぶ意欲の高まる、わくわくする授業をしてくれる」という項目で平均3.35pt以上である。	⇒ 全教員が公開授業を実施し、他教員の授業も参観することで、自身の授業を振り返り、授業改善に励むようにする。【全教員が他教員の公開授業を1回以上参観】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)